

～第二次世界大戦の奇跡～

凡人のあきれん

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

一話なので、特に無しです!!

目次

第二次世界大戦の奇跡

per t l

1

〈第二次世界大戦の奇跡〉 p e r t l

〈これは第二次世界大戦に巻き込まれてしまった、一人の兵士と少年の話〉

※注意事項※ 空想の話、又は冗談などを含むので、マジにする人は読まない方が良
いです。

第二次世界大戦がモチーフなので、いくらか皆さんが知らないような銃、戦車、戦闘
機が出てきます。

今回は急いで考えた小説なので、試し読み位に思ってください。

〈それでは皆さんも話の中に入ったような気分でお楽しみください〉

20XX年 世界では、ゲームの中で銃を撃つゲームが流行っていたんで、

世界の人達は兵士に憧れる人がたくさんいたのであった

その一人の少年は世界一と行っても過言ではないほど、FPS、TPSが好きだった
のだ。

ある時、夢のなかで兵士になった夢を見て、その日から周りがおかしくなっていた
のであった……

ひとつシム口は思ったのだ「まるでみんな司令官みたいだ……」

と思った瞬間!! 少年は頭が急にクラクラし、意識を失なってしまった……

しかし、シム口は運良く周りに人がいて、救急車を呼んでくれた。

しかし後期症なのか、意識が覚めると「天皇陛下万歳!!」などなど、昔の大日本帝国の兵士が言っていた言葉を言い出し始めたのだ!!

少年の話（一話）終わり

ここまでは20XX年の話だ。

ここからは1943?年の話

今回は米軍の話だ。

その頃兵士は休暇中だった。彼の名は、ボブ・ジエイソンという米軍兵だ、その兵士はまだ新人兵だったが、かなり銃の扱いになれていて、まるでエリート兵にしても良いくらいだった、

しかし彼には弱点がありそれは、

人を殺す事が嫌いみたいなのだ、教官がこう言う

「お前を二気に上級兵にしても、良いと司令官が言っていたが俺はそれを認めない、お前は心が優しすぎるんだ!! 人生には優しすぎたらダメな時もあるんだ。だから心を鍛え直す。OKだと思ったら上級兵にしてやろう。予想以上にお前の心が強くなったら

分隊長にしても良いぞ

」。

という励ましの言葉をくれた。

その翌日からは教官がさらに厳しくなっていた。

それは当たり前と思っていた。

だって昨日あんな事言ってたもんな、

と思ったボブだった……

日に日にボブは心が強くなっていった。

そして、いよいよ戦場に行くためのテストがやってきた。

この訓練は仲間と連携をうまく取れるか、銃の精度、等の実際の戦場で求められるス

キルを

上手く、正しく、使えるかの訓練だ。

そしてボブはそのテストでは、二位という成績のため戦場に行く事が認められた。

そしてそのテストで一緒になった分隊も全員合格だったため、そのまんまテストの分

隊は実際の戦場で受け継がれる事になった。

兵士の話（一話）終わり